

知見の囲炉裏端

いろいろばた 観望庵 Vol.26



高島 秀行



近頃嬉しいことと、腹立たしいことを述べる。嬉しいことは、押しなべて各分野で「若手の台頭」である。将棋の藤井総太名人は、十歳代から二十歳代台にかけてタイトルを総なめにし、あと一つで全冠制覇の八冠、これは前人未踏であるという。観望庵も嗜む囲碁では、タイトル数では井山裕太が断トツであるが、仲邑菫（なかむらすみれ）ちゃんは可愛い目をくりくりさせて、十三歳で女流棋聖を獲得、現役女流棋士として大活躍である。

陸上では、新星トリンドル玲奈似十五歳が登場し、各大会で新記録を出し、可愛さというよりも既に美形と相まって視聴者の眼を奪っている。大谷翔平二十八歳は、今は若手とは言えないが、二刀流を引っ提げてアメリカに渡ったのは弱冠二十三歳であった。

一方、腹立たしいのは、中国とロシアである。というよりも、プーチンと習近平である。ロシア人、中国人個人が腹立たしいわけではない。日本文化を愛する両国民も多い。

しかし習近平は約束を違え、香港の一国二制度を一制度に制圧し、言論の自由を封じた。しかも、個人の持つ全世界の中国人の知識は究極、中国共産党に帰属する、と、とんでもない法律を作った。直近では反スパイ法の強化で、誰でもしゅっ引けるようにした。台湾がいつまで、現在の自由と人権を守れるか心配である。論理や国際法よりも、共産党、即ち習近平帝国を着々と作りつつある。国際法よりも一党独裁力である。

ロシアは、独立国ウクライナに戦争をしかけ、なんだかんだと言いがかりをつけ、ウクライナの国土を爆撃し、国民を殺戮し、戦争を終結する気がない。今や西欧から見れば、狂人としかいいようがない。

両国の共通点は、エネルギー資源を豊富に持っていること、そして過去にあった大帝国主義を目指すという、甚だしい時代錯誤である。